

2009 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	F Y S 千田先生クラス		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

私は去年、大学に入学したばかりのころ、大学生活になじめず戸惑った経験があったので、後輩の手伝いをしたいと思い、ファーストイヤーセミナーのチューターに応募した。チューター業務は、授業参加とレポート相談だった。

授業では、1 回生が各々テーマを決めレポートを書き、発表した。そのあとで、各テーマごとに自由に3～4人のグループを組み、もう一度レポートを作成し、発表した。チューターはそのレポートに、感想を述べたり質問をしたりした。質問をするにあたっては、事前にテーマのキーワードを調べたりしなくてはならなかったもので、かなり多岐にわたって様々な問題を知ることのできるいい機会だったと思う。また、参考文献の書き方などのミスは、2 回生になっても改善していない学生もいるので、自分も同じミスをする可能性があることを認識し、気をつけなくてはならないと思った。

レポート相談では、何に焦点を当てればよいかわからない後輩のサポートをすることで、「何が問題なのか」をよく考え、問題点を絞ることの必要性を強く感じた。また、レポートの相談に来てくれた1 回生の発表が、よくまとまった内容のものになっていて、先生からも褒められていたので、自分のサポートが役立ったと感じ、とてもうれしかった。

レポートの相談に関しては、大学入学後一番はじめにぶつかる壁がレポートであると感じるので、以降もぜひ行ってもらいたいと思った。今回は相談件数が2 件ととても少なかったが、相談したいときに相談できる環境が整っているのは、1 回生にとって心強いのではないかと感じた。また相談を受けることによって、ただ1 回生のサポートをするだけでなく、自分自身のレポートを書く能力を考えなおすことができたのは大きな成長であると思う。

<今後のチューターまたは先生への提案>

2009 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

まず、私みたいなものにファーストイヤーセミナーのチューター業務の仕事をくださったことに感謝したいと思います。ありがとうございました。

仕事内容については、レポートがよく出されるのでそれについての相談と講義のときにアドバイスをすることでした。週に2回、レポート相談所を昼休みに設けていました。レポート相談所には、なかなか来ていただくことができなかつたのですが、もう一人のチューターさんと次の講義について事前に話し合い、準備ができる機会として大切であったと感じます。講義のときは、基本的には「レポートやレジュメの書き方・各自が発表するテーマ」について、疑問点や改善点を率先して発言するといった内容でした。

最後に、このチューター業務の仕事をすることによって、社会の労働問題に関する問題の認識、理解を深めるとともに、授業を進める立場の難しさがわかりました。そして、千田先生は一人一人の学生たちの意見を大切にされているので、色々な意見を聞くことで自分にとっても新しい発見となり、また2年前にこの授業をとっていたので復習にもなり、とても良い経験になったと思います。さらに、千田先生はいつも私のフォロー役に回ってくださって、チューターとしての業務が非常にやりやすかったです。また、今まで話す機会がなかった人たちや先生とも交流を深めることが出来るというのもチューターの魅力の一つではないかと感じました。このチューター業務は、私の大学生活の中でも貴重な機会であったと思います。学生でありながら授業を進める立場に立てることは、先生の立場と学生の立場からみることができるので、先生と生徒の壁を少しでもなくすことができる仕事でもあると考えました。これから、この経験を生かして大学生活を送っていきたいと思います。

<今後のチューターまたは先生への提案>

今後のチューターさんに向けて・・・大学の先生方は、みなさん心優しい人たちばかりなので、怖がらず、授業の提案を自分からどんどん発言していいと思います。

2009 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

春学期のチューターという仕事を一言で表すと「成長」であると思います。チューターという仕事を始めた当初は、先生の授業補助という認識でクラスに入りましたが、チューターの回数を重ねていくことで、単なる授業補助ではなく、クラスの員員であると感じるようになりました。それは、ファーストイヤーセミナーのクラスの一年生が日々成長するのと共に、チューターである自分自身も成長していると感じたためです。

最初、互いに名前も知らない1年生たちは発言も少なく、後にディベートの練習をするのに大丈夫か私は正直、心配でした。授業開始当初、彼らは先生に与えられた事を指示の通りに行い、私たちチューターのアドバイスをそのまま受け入れてその通りに行っていました。しかし、何回か授業を重ね、お互いにどのように思っているのかがわかってくと自然に発言できるようになっていました。また、調査の方法を知ると自ら進んで調査をすることが出来るようになり、多くの情報を集めることが出来るようになりました。そして、情報をもとに自分の意見を持ち、話し合いをグループ内ですることが出来るようになり、結果的にはクラスでの話し合い、つまり、ディベートの形にまでたどり着くことが出来ました。1年生は初め、チューターや先生の意見に依存していましたが、最後にはチューターや先生の意見を一つの考え方として活用するようになっていました。

私自身1年生の成長に携わることで、チューターとして何もかも教えるのではなく、アドバイスという形で発言していくことの大切さを実感しました。アドバイスはヒントであり、1年生が新たな答えを発見するきっかけになるということを知りました。また、1年生の目線に立って考えることで、3年前は私も同じように右も左もわからないような1年生だったということ思い出し、自分自身の原点を見つめるきっかけにもなりました。夢や希望にあふれる1年生と共に勉強できた時間はとても貴重なもので、私自身、残りの学生生活を大切に送りたいと思いました。

私はチューターという仕事をさせてもらうことが出来て本当に良かったと思います。1年生からすると私は単なる先輩でしかありませんが、私は私を成長させてくれたクラスの1年生たち、チューターの仲間、社会学部の皆さま、そして、寛大で最後まで多くのことを教えて下さった富田先生に感謝しています。半期間ありがとうございました。

<今後のチューターまたは先生への提案>

ファーストイヤーセミナーでは新聞記事や互いの意見を批判したり、自分の意見を証明したりする、ディベートをするために必要な能力の育成を行ってききましたが、その内容がとてもおもしろかったので、次回は内容を目に見える形で残したらどうかと思いました。十分な時間はないかもしれませんが、文書や冊子など目に見える形で残すことで、後々「こんなこと勉強したなあ」と振り返ることが出来、また、他のクラスの行っていることを知る事が出来ておもしろいと思います。チューターは他のクラスのチューターとの交流をもっとすべきだと思います。それにより、お互いの刺激になり、視野も広がり、よりよい仕事出来るのではないかと思います。

2009 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

主な仕事は、1回目のグループワークでは、参考文献を読み、内容の要約や重要な部分の抜き出しなどのやり方を教えること。全体講義では、授業冒頭のアンケートを集計し、授業の最後に結果を発表できるようにすること。2回目のグループワークでは、記事から筆者の主張を読み取り、その裏付けとなるようなデータを収集し、ディベートが行えるようにすること。

1回生はまだレポートの書き方やディベートの仕方など、知らないことが多いので、基礎から教えてあげることが多かった。2000字のレポートと言われても、最初は何をすればいいかわからないで戸惑っている1回生が多くいたので、参考文献の集め方や使い方、論の展開の仕方や意見の描き方、引用の仕方などをアドバイスした。最初は1回生同士あまり仲が良くなっていない状態からのスタートなので、発言が少なくグループワークもややうまく進行していなかったが、時間がたつにつれ、1回生同士も慣れ、また考え方などもはっきりしてきたようで積極的に発言してくれた。資料の探し方などもすぐに身につけていたと思う。1回生とは、このファーストイヤーセミナーの授業の話だけではなく、他の授業のことや他の先生などの話もした。そのようなとき、同じ学科の先輩としてアドバイスできたのはよかった。1回生のときに、そのような履修要項だけではわからない情報を先輩から聞ける機会は今まであまりなかったと思うので、学校がその機会を作ってくれたのはいいことだと思う。

授業の回数が少ないので1回生と会える機会も少なくなり、仲良くなりきれなかったことが1番残念なこと。あと、もう少し先生と連絡をまめに取っ合い、授業がよりスムーズに進むよう打ち合わせを重ねれば、よりいい形で1回生と関わったのではないかと思う。先生が行いたい授業にあわせ、チューター同士も連絡をきちっと取り、もっと自主的に手伝いをすべきだった。

<今後のチューターまたは先生への提案>

とにかく、同じクラスのチューター同士と先生は連絡をこまめに取ること。より密度の濃い授業が行えるよう、チューターは自主的に考えるべき。1回生と仲良くなり、質問しやすい雰囲気をつくることも大切だと思う。それから、他クラスのチューターとももっと情報を共有し合う方が、よりよい活動ができるのでは。

2009年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	F Y S 富田クラス		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

チューターの仕事は基本的に1回生の発言の手助けをすることだった。3つのグループに分かれて、チューターが1人1グループを受け持つということで、最初はどこまで発言したらいいのか、など戸惑いましたが、自分が1回生のときを思い出し、もし今自分が1回生だったら、と考えてしてみると戸惑うこともなくなった。またどんどん1回生のみんなが友達と仲良くなっていったり、環境に慣れてくるごとに発言の回数が増えたり、私が助言しなくても調べなければいけないことなどが分かってきたり、とても嬉しかった。最後の3回の授業ではグループごとに産業関係に関する新聞記事を選び、その記事の裏づけをするためにインターネットで有効な資料を探し、まとめ、反対意見が出るだろう箇所にも反論できるように資料を探し、発表したのだが、最初はすごく発表できるのか心配だったが、1回生とは思えないほど各グループの発表はしっかりできていて、この授業にチューターとして参加できたことを嬉しく思う。

また、全体授業では授業の始めにとったアンケートの集計結果を授業終わりに発表するという新しい形での授業だったので授業内に集計が終わるかとても心配だった。しかしチューター同士で集計内容を分担し協力し合うことで時間内に集計が終わり先生が発表できたので、1回生の立場から見ると、労働力人口や失業者数などがより身近に感じ、わかりやすかったのではないだろうか。

初めてのチューター制度導入だったので自分が1回生のときの見本がないため、全く何をすればわからなかったが、今年の1回生たちが私たちチューターを見て、私もチューターをやってみたいと思ってくれたらいいな、と思う。

<今後のチューターまたは先生への提案>

チューターという先生よりは親しみやすい立場がいることによって、安心して気軽に発言できるように感じたので、これからチューターは必須だと思う。大学に入学したばかりでまだ馴染めていなかったりするので、小クラスといえども緊張などから発言はしにくい。チューターという緩和材料があるからこそ小クラスで更にグループ分けもできるし、1回生同士の話も膨らむのではないだろうか。

また、チューターがパワーポイントでの発表の見本を見せるなどをすれば、どのように発表すればいいのか分かりやすいのではないだろうか。

2009 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

私はグループ授業でのお仕事を主にやらせていただきました。クラスを2つに分けて8人のグループを作り、その進行役をしました。

まず、本に基づいたグループディスカッションを行いました。グループディスカッションでは受講生の皆さんの素直な意見や興味深い着眼点を色々と聞くことができ、学ぶことが多かったです。受講生の皆さんは入学したばかりであり議論が発展しないのではないかと心配していましたが、先生や私に質問をしながら各自理解を深めてくれ、しっかりと自分の意見を持ち、中身の濃いディスカッションができました。なので、受講生の皆さんはたくさん学んでくれたと思います。

その次に、ディスカッションをまとめたパワーポイントを作成しました。テーマはホワイトカラー・エグゼンプションに賛成か反対かというものでした。私のグループでは反対の立場でパワーポイントを作っていました。さまざまなトピックを各自1つずつ担当してもらい、スライドを1人1ページ作成しました。表を挿入したりして分かりやすいスライドを作ってもらいました。スライドの発表時、どんな風に話を進めていくかも考えてもらい、発表の練習も行いました。それほど深くはできませんでしたが、この授業でパワーポイント作成の練習とプレゼンテーションの練習をしておき、これから先の授業などでこの経験を活かして欲しいです。

気づいたことは、少人数のグループだと個人がより考え、より積極的に発言してくれることです。もともとクラス自体が少人数ですが、さらに2つに分けることで受講生の方々はより真剣に考えてくれていたと思います。少人数のメリットは大きいと思いました。

チューターは私自身も大変勉強になり、貴重な経験となりました。本を読んで授業の準備をしたり、ディスカッションの話を聞いたりして、新しい知識を得られました。初めはこれほど学べるとは思っていませんでした。先生が私に色々と任せてくださったので、たくさん勉強できたのだと思います。今後もこのような機会があればぜひ取り組みたいです。

<今後のチューターまたは先生への提案>

グループディスカッションでは、こちらが工夫しないと受講生の方がなかなか発言してくれない場合があります。その時はこちらから話をふるなど、誘導が必要です。議論が軌道に乗るまではチューターの気配りが重要だと思いました。

2009 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

春学期のチューターの仕事を通して私はとても良い経験をさせていただきました。私自身このような経験は初めてであったのでうまくできるか心配でした。しかし先生のフォローや三山先生と打ち合わせを行い授業を改善していくことも出来ました。

また一回生の子たちはこのような少人数クラスでの授業をこなした経験をしたことやディバートの経験やレポートの作成の仕方を多くの生徒は知りませんでした。そんな中で一回生の生徒達にどのようにしたらディバートで意見を言いやすくなるのかを考えながら自分なりに考えて改善していくことができてきました。実際に私も一回生の時はディバートで意見もあまりうまく話すこともできませんでした。そのような経験から一回生の生徒の立場に立って考えることで、話しやすい雰囲気作りを心掛けました。最初は自分から積極的に話す事が少なかった一回生の生徒たちも授業を重ねるごとに、自分から発言するようになりました。それに加えてレポートの作り方やテスト勉強の仕方など自分から説教苦的に私に聞いてくるようになりました。

私が一番うれしかったのが目に見えて一回生の生徒たちの成長する姿を目にすることができたのがとても私には嬉しかったです。授業への姿勢も変化し、しっかりとした準備をして授業に参加するようになりました。そこで一回生の子よりも私の準備不足や知識の不足があり、一回生の生徒たちには迷惑をかけました。

春学期のまとめとして作成したパワーポイントにおいても皆が自分なりの意見をそれぞれが述べてくれたおかげで授業のまとめとしてとてもいいものができたのではないかと考えています。

結果としてチューターという仕事を体験させていただいたおかげで、自分自身成長することが出来ました。貴重な経験の場を提供していただきありがとうございました。

<今後のチューターまたは先生への提案>

2009 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

ファーストイヤー4クラスのチューターは、少人数授業をメインに活動しました。文献や関連資料をもとにディスカッションのテーマとねらいを先生と共に事前に考えること、授業中に受講生に発言を促し、活気づいたディスカッションになるよう努めること、そして、先輩として自分の体験を踏まえたアドバイスをしました。全体授業では、資料配布や板書など先生の補助にあたりました。

先生が何をねらいとして、どのように授業を組み立てているのか、について受講生の立場では考えることはなかったので、ディスカッションのテーマづくりは大変勉強になりました。受講生がどんな反応をするか、先を見越すことは難しくもあり、興味深いものでした。受講生とは違う、チューターという立場で授業に参加することも、今まで見えていなかった側面を垣間見ることができて、新鮮な感覚でした。今後の授業に対する目線も変わりそうです。

レジュメの作成やディスカッションに真摯に取り組む姿や、受講生のハッとさせられるような意見から、よい刺激をうけました。また、後輩にアドバイスする立場するためには自分の学力を深める必要性も感じましたし、何より自分を省みるきっかけとなりました。

私はよく活動報告を頻繁に更新しました。GP ワークスペースの環境はすばらしくよかったです。1回1回の授業のよかったことは何か、反省点は何か、そして次回の目標、チューターとしてどのような行動をすべきか、等等活動報告をしながらじっくり考えることができました。その考えた時間が、自分自身のモチベーションを高める時間になったと思います。授業の回数こそ限られていて、短い期間でしたが、試行錯誤しながら取り組むことができたのでよかったです。ミーティングボードを積極的につかっていましたが、あまり他のチューターさんの反応がなく、正直寂しかったです。元々知り合いのチューターさんとは、困っていることなど談義ができ、参考にさせていただきました。だからこそ、もっとチューターさんと交流できたらいいなと思いました。

2回生でまだまだ未熟な面も多々あり、役不足で申し訳ない気持ちもいっぱいです。あっという間でしたが、チューターを一生懸命取り組んだ期間は、大変濃く、充実した時間となりました。大学生活においていい刺激になりました。参加させていただいたこと、お世話になったすべての方に大変感謝しています。ありがとうございました。

<今後のチューターまたは先生への提案>

チューターがどのような立場で発言をすべきか、ディスカッションに参加するか、について最後まで頭を悩ませました。チューターは部活の先輩が授業についてアドバイスするのは違うことだと思います。ただいるだけ、思ったことを言うだけ、ではいけないような気がしました。春学期だけでは、なかなかつかみ切れなかったところが多々あり、悔しさも残ります。今後のチューターさんには、チューターだからできること、そのためにはどのように授業に関与するか、果たすべき役割は何かについて、試行錯誤して探求して欲しいです。

ミーティングボードといった、チューター同士の交流ももっとあればいいと思います。

2009 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

今学期に初めてチューターの業務を体験して、一回生の学習を先輩の立場に立って補佐すること、私自身の学習にもつながったと思います。担当の阿形先生の FYS 個別授業を一回生で受けたことがあったので、その当時の記憶をフル活用することができました。今学期のはじめの方は一回生はまだ大学に入り立てで、どこがおぼつかない印象を持っていましたが、授業が進んでいくうちにだんだんと慣れていったと思います。

チューターシステム自体が今年初めてのことであったので、どのような方向でいけばいいのか自分でもわからなかったもので、戸惑いながらその場その場で臨機応変に対応していきました。主に、レジメの作り方、司会・演説の方法、ディスカッションの活性化の方法などを一回生に教えました。発表を翌週に控えている一回生には昼休みに明德館地下に集まって、当日の役割分担や司会進行・発表の流れ、当日のディスカッションのテーマを相談して決めました。そして、当日は一回生のみんなが議論に参加しやすい環境を作るようにチューターが先陣を切って意見をもちかけたり、また議論が膠着した際には、別の視点から意見を提供したりしました。そうしていくうちに、一回生も要領がわかってくれたようで個別所業の最終回には授業に参加した全員が意見を出し合い司会進行も割とスムーズにできたと思えます。

しかし、一つ気になったことは、今年の一回生は十分に大学生活を楽しめていない人が多いのではないかと感じました。「大学生活を充実させるためには」というテーマでたびたび議論を進めてきたが、「現在、自分の大学生活は充実しているか」一人一人の意見を募ったところ「充実していない」と答えた一回生が大半を占めていた。自分が一回生の頃は、大学に憧れを持っており、部活に勤しみキャンパスライフをエンジョイしていたのですが、今の一回生はそれほどエンジョイできていないという事実を知ったときはショックでした。今年、社会学部が新町に移動したことで社会学部生は部活に参加しづらくなったのも原因の一つとして考えられるが、もっと主体性をもって大学生活をエンジョイして欲しいと願います。

<今後のチューターまたは先生への提案>

一回生の面倒を見ることで、自分の勉強にもなります。また個別授業において、議論を進めていくうちに、自分自身新たに発見できることもあるので今後チューターを希望される方は頑張ってみてください

2009 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	F Y S		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

チューター業務を通し、様々なことを学ぶことができた。特にチューターの仕事のひとつである一回生のディスカッションのサポートでの困難と発見がよい経験になった。

困難と発見とは、環境づくりの難しさである。ディスカッションを上手く進めていくにはどうしたらいいのか。言い換えれば一人一人の考えを発表しやすい環境を作り上げるにはどうすればいいのか。この環境作りが大きな課題だった。考えを持っているのに、回りの雰囲気にならざるに口に出せずにいる学生や、特定の人だけで議論が進んでしまったり、回りに圧倒され考えることへの関心が薄くなってしまったり、ディスカッションの中で様々な学生の姿が見られた。自分が参加するだけなら自分の意見を口にすればいいのだが、相手が話しやすいように、聞きだすこと、引き出すことに難しさを強く感じた。

残念ながら普段の生活のなかでは問題意識を共有し自分の考えを伝え、相手の考えを聞き互いに議論する場面はほとんどないと言えるだろう。講義の内容や講義から発展した問題、時事問題などを真剣にとらえ考える機会は大学内でも少ない。自分で考える場、問題を共有する場を提供し、考える力を生み出す機会がF Y Sであり、チューターの講義参加であったと思う。考える場、相手の考えを受け入れる機会の創造は、大学生生活に確かな学問的な刺激を与え、興味関心の幅を広げる機会となると考えられる。

またチューター制度は、上回生と下の回生を結ぶ役割としても活躍しているように感じた。なかなか講義だけの大学生活では上回生と触れ合う機会は少なく、サークルやクラブを除き話す機会を得ることはほとんどない。上回生と話す機会を得る場面が増えることもチューター参加の意味は大きいと思う。そのような学年を超えたつながりが生まれたことも今回よい機会になったと思う。また、チューターを務めている者同士で参加するクラスの様子や問題点などを話す機会にも恵まれたことも一つの財産になった。

<今後のチューターまたは先生への提案>

チューター制度が上手く機能することによって、素晴らしい機会やきっかけを得ることができる取組だと感じました。

募集の時にもう少し業務の内容がはっきり明らかになっていると応募しやすいように思われます。

2009 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

今回、チューターの仕事をしていただいて、他の人が経験出来ない貴重な体験をすることが出来たと思います。最初、この仕事をさせていただけると決まったときは期待と共に、本当に私なんかで務まるのだろうか、きちんと授業の補助が出来るのだろうかと不安な気持ちも同時に持っていました。

私の担当であったクラスでは、本や資料を使って進めるような授業ではなく、自分の興味のある事柄に関することをグループごとに各々調べ、それを皆の前で発表するというものでした。一回生たちの多くはきちんとしたプレゼンテーションは初めてのようで、どのようにスライドを作り、どのような工程で話を進めていけばよいのか、少し困惑しているようでしたが、担当の森山先生がわかりやすく説明して下さったということもあって、結果的に皆、とても興味深いプレゼンテーションを行うことが出来ました。私が考え付かないようなテーマを題材としていたりして、私も彼らのプレゼンテーションから良い刺激を受けることが出来ました。

一回生と一緒に授業を受けてみて、去年、自分自身が同じ受けていた時とは違い、前より少し客観的に、一人一人の意見をよく聞き、また、自分の意見を述べるようになっていました。これはこのチューターの仕事をやって一番良かったと思える点です。しかし、それは単に以前に比べてというだけであって、もっと成長出来る部分があったのではないかと思います。業務を終えてみて、考え方の視点を変えることや、他の人の意見を聞いたうえでその意見を含めて考えるということが足りなかったのではないかと感じています。しかしながら、もしチューターの業務を行うことがなければ、今、私に足りていない点について考えることもなかったかもしれないと思うと、このことに気づけたというのも成長だったのではないかと思います。

チューターの業務を振り返ってみて、最初は不安もあったけれども、やはりこの経験ができて良かったです。今回成長した点や気づいた点をこれからに生かして、さらに自分を高めていきたいと思えます。

<今後のチューターまたは先生への提案>

これからのチューター業務に対して意見を言うと、もっと一回生と関わりを持てるようになれば良いのではないかと思います。例えば、授業以外でも、質問や相談が出来る時間をもうけることで、一回生たちとの関係をより深めることができ、授業の中でも緊張することなく、皆で話し合いをする場合でも、もっと意見が出しやすくなるのではないかと思います。

2009 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	F Y S		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

ファーストイヤーセミナーの個別授業を担当しました。森山先生のクラスでは、毎週2組がテーマ自由のプレゼン発表を行い、質疑応答をして90分を構成しました。その中で私は、質疑応答での発言を心がけました。

ひとつ気づいたこと、そして疑問に思ったことは、チューターがどこまで授業に関与したらいいのか、というものです。発言しなければいる意味がなく、かといって発言し過ぎてしまうと、受講学生が授業に関わる時間が減ってしまいます。その加減具合に迷いました。

<今後のチューターまたは先生への提案>

チューターの役割がフワフワしていて、正直何をしたらいいのか分かりませんでした。来年以降、「チューターの役割は何なのか」をもっと明確にしていくべきだと感じます。